

## 関東支部

<http://kanto.aij.or.jp/>

北山和宏 | 支部長 (2022-2023)、東京都立大学教授

2020年1月に端を発したCOVID-19が社会生活に与えた影響は相変わらず大きく、人びとの意識と健康に拭い難いダメージを与え続けた。オンライン会議のノウハウが蓄積されて円滑な運営がなされるようになったが、対面によって発表し議論することの利点も再認識され、支部活動においては可能なところから対面での実施に戻しつつも、講習会等では臨機応変にオンラインと対面とを併用する形態を採用した。

### 2022年度支部総会

2021年度の支部総会はオンラインでの開催を余儀なくされたが、2022年度には山梨県甲府市において対面にて開催した。総会に先立って「富士山噴火による被害と対策」と題した講演会が開かれ48名の参加者を得た。その後の総会には36名が参加した。関東支部総会は七県に設置された各支所の持ち回りで開催され、日ごろ交流する機会の少ない支所の方々と意見交換できる貴重な機会である。今回は山梨支所の役員や学会関係者との意思疎通の円滑化に大いに貢献したと考える。

### 関東支部役員会

役員会は支部長と常議員30名、監事2名および支所長7名から構成される。2022年度には役員会は臨時のものを含めて九回開催されたが、全てZoomによるオンラインで実施した。自身のオフィス等から気軽に参加できるオンライン会議の特質を活かし、常に高い出席率を得ることができたのは幸いである。思うに二時間程度の会議のために往復数時間を費やさないといけないような参加者にとってはオンライン会議は捨てがたい魅力があり、かくいう筆者もそのひとりである。それゆえ、懇親のために対面での役員会を開催することの重要性は認識するものの、オンラインでの会議を積極的に活用したいと考える。

役員会では各支所での活動状況の報告が毎回行われる。各支所においては展示会、講演会および見学会などの多彩な催しが積極的に推進されていることを強調したい。なお2023年1月に神奈川支所長の福井通氏が逝去された。本会の活動に多大の貢献をされた福井氏のご尽力にあらためて感謝し、衷心よりご冥福をお祈りする。

### 支部研究発表会

2022年度の支部研究発表会は2023年2月27日、28日の両日、早稲田大学西早稲田キャンパスで開催され、対面での発表および質疑討論が四年ぶりに実施できた(写真1)。あわせて防火講演会も実施した。研究発表会では272件の発表があり、二日間で延べ1,139名の参加者を得た。学生諸氏のなかには今回の発表が初めての対面発表となった方も多かったであろう。自身の研究成果を会場の聴衆に対して直接に発表し、そこで様々な意見や質問を受けて回答するという貴重な経験を今後の活動に活かしていただければ幸いである。

研究発表会では優秀研究報告集および若手優秀研究報告賞の審査も並行して行われ、前者には47件の研究が選定され、後

者には21件の研究が顕彰された。今後の研究活動の励みになることを期待している。

対面開催のために会場を提供していただいた早稲田大学、および発表会の運営に協力いただいた支部の役員諸氏、司会や論文審査作業に携わってくださった皆さま、学会事務局などにあつく御礼を申し上げる。

### 提案競技

2022年度の支部提案競技は茨城県大洗町で開催された。本競技の目的は自治体におけるまちづくり・景観づくりに対する市民の関心を高め、より良い地域をつくる意識の醸成を図るとともに、専門的な観点からの提案を通じて当該地域のまちづくり・景観づくりの課題解決の促進および自治体の施策推進に貢献することである。

本年度は「風光明媚な自然と多彩な景観資源がありなす大洗町の未来を考える」とのテーマを掲げ、「歴史と現在をつなぎ未来の大洗を創造する」と題して大洗町の活性化のための提案を募集した。その結果、21件の応募を得た。非公開の第一次審査を経て選抜された9件に対して、公開の二次審査を2022年12月中旬に大洗町の幕末と明治の博物館において実施した(写真2)。二次審査に進出した学生諸氏による熱心なプレゼンテーションと審査員たちによる厳しくも暖かみの滲み出た質疑とが行われ、白熱した審査会となった。その様子は筆者にとっては大学での設計課題や卒業設計の講評会を彷彿とさせるものであったが、実現可能な提案を真摯に考えたものばかりでそれぞれがとても興味深く、また総じてレベルは高かったと思う。

審査の結果、最優秀賞、特別賞(市長表彰)各1件、優秀賞3件および佳作4件が表彰された。企画立案を担った茨城支所、審査員の先生がたおよび大洗町の皆さまにはあらためて御礼を申し上げます。

### 講習会・シンポジウム・展覧会など

2022年度も多彩な講習会、シンポジウム、展覧会等が対面のみ、オンラインのみおよびその両者の併用のいずれかの形式で開催された。その例を以下に紹介する。

多様性を尊重し誰もが生きやすい社会を構築するために、男女共同参画は本会においても重点課題に設定されている。関東支部においては男女共同参画推進委員会懇談会を毎年実施しており、2022年5月に「多様な働き方・価値観に呼応したキャリア開発」と題した6回目の懇談会がオンラインで開催され、41名が参加した。2022年11月に構造デザインフォーラム2022(第27回)「若手エンジニアの構造デザインはいま」が対面とオンラインとの併用で開催され、126名が参加した。2023年2月にシリーズ「建築のみかた(第14回)クリエイティブの力」が建築会館ホールでの対面とオンラインとの併用で開催され、121名が参加した。



写真1 対面で開催された支部研究発表会(早稲田大学)  
(撮影:支部事務局)



写真2 提案競技の公開審査の様子(大洗町・幕末と明治の博物館)  
(撮影:北山和宏)